

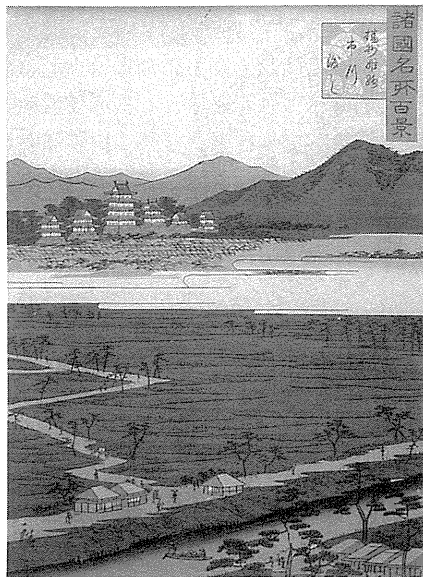


『城東地区』をたずねて

城東地区は、姫路城の東方に位置し、おおむね現在の東光中学校校区を指す。この地区は市川の乱流による沖積地である。姫路近傍古図によると、かつて白井川が橋之町・大黒壺丁町を流れ、窪手川が九所御霊天神社のあたりを流れていた。『播磨考』によると、市川は永享(1429~40)から天正(1573~1591)ごろに瀬替えとなり、いまの流路になったという。上古には神屋に住した忍熊王らと大和勢力との抗争があり、日祀部(国の平安を祈願する部族)などの部が城東町あたりに置かれた。

大化改新により国府が置かれたが、その位置については諸説があり、一説では城東町周辺ともいわれた。国府には「市」が設けられたが、『枕草子』に記載の「飭磨の市」は有名で、これにちなんだ市之郷、市川等の地名が見られる。

平安期には王朝領の志深荘となり、鎌倉中期には持明院領、戦国期には赤松氏の勢力下となった。池田輝政の町割により、外濠以西は城下となり、神屋は旅籠町、下級武士屋敷となる。明治22年、国府寺・神屋・市之郷の諸村は市殿村となり、同45年姫路市に合併。明治末期より大正7年ごろにかけて山陽皮革、日本毛織等の工場が進出し、大正末期よりの耕地整理によって宅地化が進展した。



市川渡し(広重画)

市川の渡し 上古は山陽道が白国を通過していたので、松瀬の渡しを越え、中古は小川のあたりを渡った。藩政期には一本松から渡ったが、現在の市川橋の北側と思われる。明治8年、始めて木橋が架けられ、同43年鉄橋となり、昭和11年現在の位置に架け替えられた。なお、藩政後期には、高木、小川、阿保等にも渡しがあった。

市川刑場跡(東郷町) 市川の渡しから約20間(約36メートル)下手にあり、斬罪・獄門などを行なった。近くには市之郷墓地、地藏院などがあり、山陽道の姫路城下への入口にも当たる。このあたりから食肉センター付近まで(市川台を除く)東郷町字大縄場で、地名にもその名残りが感じられる。このほか大日河原、阿保河原でも執行された。

地藏院(京町2丁目) 曹洞宗、明暦2年(1656)創建。

旧山陽道に面し、藩政期の市川刑場に近かったので供養寺ともなった。境内に石棺仏があり、地藏立像が刻まれている。長持型石棺を利用した例は少なく、長側石を用いた

市内唯一のもので、天文ごろ(1532~55)の作といわれている。凝灰岩製。また、もと仁寿山校にあった白鹿堂碑が境内に移されているが、故あって、碑文は書き替えられている。

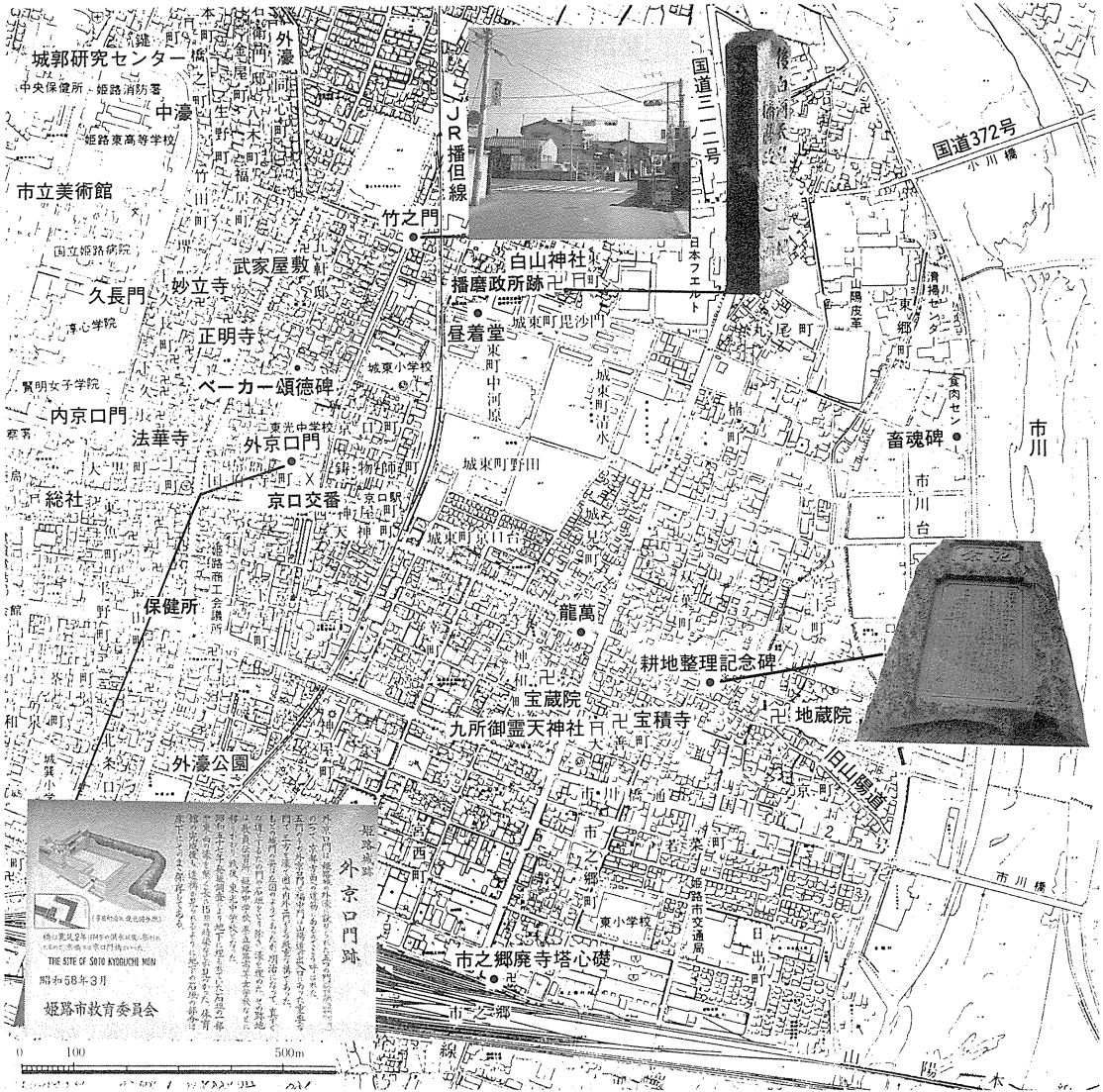
畜魂碑(東郷町) 市の食肉センターの場内に建てられている。ここは明治34年、民営により建設され、大正2年に市営となり、昭和13年北東郷町8丁目に新築移転、同46年再び現在地へと移り、と畜場と卸売市場を併設した近代的設備を備えている。姫路食肉協同組合によって、年1回碑の前で畜魂祭りを行ない供養している。碑は昭和7年に建てられた。



地藏院の石棺仏



畜魂碑



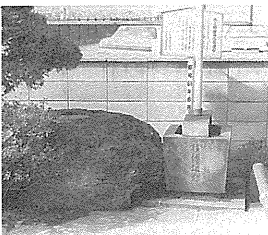
東郷町耕地整理記念碑（宮上町） 東郷町、丸尾町、楠町、双葉町、宮上町等にまたがる地域で、永井栄次郎・大森助三郎・中安福次・原浅次郎ら地主 121名によって組合を設け、大正15年より耕地整理事業が行われ、昭和6年完工した。敷設した道路は約6900メートルにも及んだ。

飾磨の市 『枕草子』に「市は飭磨の市」とあり、古来有名である。城東町から市之郷周辺にあったとされる。大化改新のあと国府が置かれたが、志深政所、国府寺政所などと呼ばれた播磨政所もこのあたりにあった。最も栄えたのは平安期より鎌倉初期といわれる。飾磨の褐染めは有名である。

市之郷麿寺塔心礎（市之郷町4丁目） 『播磨鑑』によると「下市之郷村の薬師は、今ここを築地の内と云う」とあり、この周辺は、白鳳期（7世紀）に創建された寺院跡で、昭和25年頃までは布目瓦

が出土した。麿寺の塔心礎は、昭和33年山陽本線の電化工事の際、約30メートル北方の現地（薬師堂内）に移し、保存されている。

宝積寺（大善町） 黄檗宗、享保年中の再興。本堂の鬼瓦に龍野町5丁目瓦工九兵衛作、享保11年（1726）6月の銘、鐘楼の瓦に藤原氏瓦工、正国丹羽九郎左衛門、寛政6年（1794）の銘がある。



市之郷麿寺塔心礎



宝積寺

九所御霊天神社（大善町） 神屋の天神と親しまれている神社。天正ごろ（1573～92）五座の神霊を祀ったが、近世になって少名彦名命を主神とし、大物主命、菅原道真ら九所（九神）の御霊を祀ったようである。延喜式に、神屋の松本天神とあるのは、この神社とは別宮である。玉垣には、江戸時代の姫路木綿の商人や大年寄の山本佐七郎、内海荘右衛門らの名が見え、明治期の銀行、企業名、有力者等の氏名もあり、貴重な史料である。



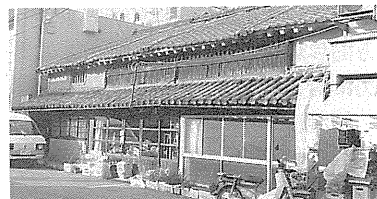
九所御霊天神社

宝蔵院（神和町） 真言宗醍醐寺派、慶長年中（1596～1614）の創立という。開基は快順。本堂の棟鬼瓦には深志野の瓦師で、嘉永3年（1850）作と記されている。戦前は、毎年7月「祇園さん」という夏まつりが行なわれ、境内外に露天や芝居小屋が出て、夏の風物詩ともなっていた。



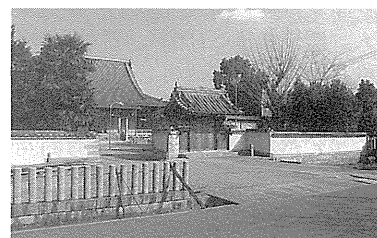
宝蔵院

龍萬（神和町） 山陽道が通ずる姫路は、重要な宿場であったが、『姫路考略記』によると、宝暦5年（1755）旅籠屋（宿屋）は、福中町17軒、神谷10軒とある。神谷は、旧橋元町・橋元新町・南神屋町・天神町等の地域をいった。「龍萬」は、藩政期からあった宿屋で、当時のおもかげを留めているが、現在の建物は明治初期のもの。付近には掛茶屋が三軒ほどあったという。南側に若松屋があるが、戦災を蒙った。



龍萬

播磨政所跡（城東町） 7世紀中ごろの大化改新によって、播磨の国府が飾磨郡に置かれたが、その所在は真宗寺や白山神社の周辺であろうと古来よりいわれた。このあたりは志深あるいは国府寺村と称したので、志深政所または国府寺政所と呼ばれた。後白河法皇の増位山御幸のとき、宿泊した館もこのあたりと伝えられ、王城の地名が中世まで残っていた。『国衙巡行考証』には、「国府寺は40軒ばかり、政所は3反（約3000平方メートル）」と記されている。いま、真宗寺の前に少しばかりの空濠があり、播磨政所の標石が立っている。



播磨政所跡

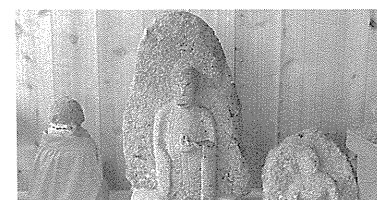
なお、真宗寺は、明和6年（1769）創立の真宗寺院で、もと国府寺村字宇屋にあったが、大正7年、日本毛織の工場建設により現在地に移ってきた。

白山神社（城東町） 古書に「明応5年（1496）白山の社前云々」とあり、すでにその頃から祀られていた。祭神は白山大権現であったが、明治初年の神仏分離令により権現は廃止されたので、白山姫命を祭神とした。もと国府寺村字宇屋にあったが、大正7年現在地に移る。歯の神様として尊崇された。いまの社殿は昭和8年に再築された。



白山神社

昼着堂（城東町毘舎門） 敏達帝6年（577）、日神と月神を祀って国の平安を祈願する日祀部をここに置き、昼着堂を祀ったという。日女尊と月読尊の二神を祭神としたが、のち市岐島姫となり、昼着神社あるいは稚日月神社とも称した。境内は2反（約2000平方メートル）ばかりであったという。



延命地藏

昭和20年6月の戦災によって焼失したが、破損した石造鳥居や玉垣の一部を地元の信者が集め、その傍らの小堂の中に延命地藏を祀っている。跡地は市営住宅となっている。

竹之門（城東町竹之門） 姫路城外曲輪の良（東北の意）の隅にあたり、鬼門になっている。鬼門は木門に通ずるので、これを避けて竹之門と称したと伝えられ、一説では、中世の竹中村の地名から一字をとったともいう。城門は明治初期に撤去。

城東小学校（城東町竹之門） 明治9年（1876）中魚町、五軒邸、河間町、天神町、市之郷等にあった8小学校を合併し、いまの東光中学校の敷地に開設された。ただし、五軒邸にあった媛山学校の開設した明治6年を創立年としている。同15年現在地に移転。同校出身者には、歴史家の三上参次、社会事業家の野口ゆか、現在では落語家の桂米朝、洋画家の杉全直などの著名人がいる。

京口交番（国府寺町） 明治8年（1875）飾磨県は庶務課に警察掛を設け、県下に3出張所を置いたが、ここに第1警察出張所が置かれた。姫路警察署の母胎。邏卒42名。県警察の中核となる。

外京口門（国府寺町） 姫路城外曲輪の5つの門の一つ。京都方面に通ずる道路筋にあるのでその名があり、中曲輪の内京口門に対し「外」を付けた。鉤型の特殊な樹形をした門であった。

明治になって門は撤去され、跡地には姫路警察、教育伝習所、姫路中学校、県立姫路高等女学校等が移りかわり、現在、京口交番と東光中学校が建っている。昭和57年の発掘調査で石組みの一部が検出され、体育館の床下に保存されている。

妙立寺（五軒邸2丁目） 顕本法華宗妙満寺派。開基は日円上人。慶長9年（1604）、遠州吉美郷より招かれて現在地に移築。戦災で殆んどが焼失したが山門は免れ、格式ある構えを見せている。境内には、砂岩製の古い一石五輪塔（高さ95センチメートル）がある。明治18年から同20年まで、東区務所が置かれていた。

正明寺（五軒邸2丁目） 天台宗、平安末期の康治2年（1143）正覚坊道邃の開基。はじめ姫山に立地し、姫道山称名寺といい播磨国府の府寺として重きをなした。貞和2年（1346）赤松貞範が構居したので山下の平野北条に移る。慶長5年（1600）池田輝政の町割で現在地に移り、正明寺と改称。境内に貞和2年の板碑（県指定）がある。また、当寺には貴重な中世文書が所蔵されている。

法華寺（五軒邸1丁目） 日蓮宗本圀寺派で山号は大乗山。文明9年（1477）播磨の三木において日登が開基。その後、御着に移ったが、慶長7年（1602）池田輝政の町割のとき招かれて、現在地に建立。千姫の位牌堂を城内より移築して祀っていたが、戦災ですべて焼失、戦後復興につとめ諸堂が完成した。境内には、寛延2年の水害による溺死者の供養塔がある。

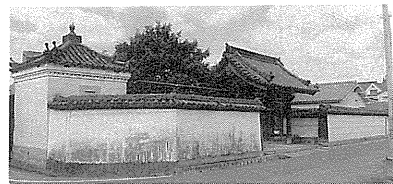
ベーカ―頌徳碑（五軒邸3丁目） エドウィン・ベーカ―（1853～1937）米人。明治22年（1889）姫路中学校教師として赴任。教え子に永田秀次郎元東京市長、三上参次、辻善之助日本史学者ら著名人がいる。明治28年（1895）ベーカ―幼稚園を創設、青い目の良寛さんと親しまれた。近くの花を改修したり、貧しい人々に救いの手を出すなど敬けんなクリスチャンでもあった。ベーカ―保育園内に頌徳碑がある。



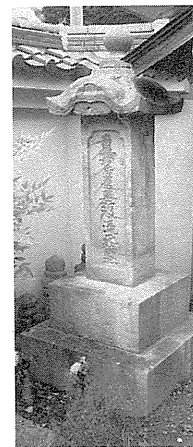
現在の城東小学校（右後方）付近外濠と馬車道（外濠を埋立てた）



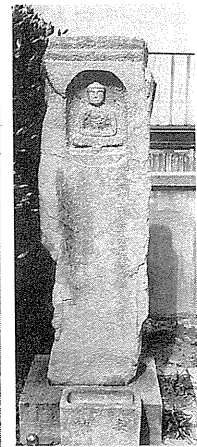
外京口門跡（京口交番と東光中学校）



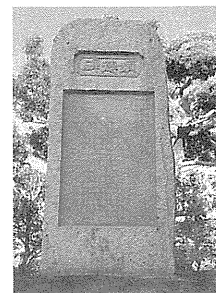
妙立寺



溺死者供養塔
（法華寺）



正明寺板碑
（県指定文化財）



ベーカ―頌徳碑